

新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、令和5年度に引き続き、毎月の部会、研究部ワークショップ(8月)、研究発表会・公開授業(2月)のいずれも対面で実施した。

1 例月の部会

4月から例月の部会を対面で12回実施した。5～9月に部員1～2名ずつがICTを用いた指導に関する実践発表をするなど、対面ならではの研究活動を行った。部内で意見交換、情報共有が円滑に行うこともできた。8月に「研究部ワークショップ」の運営準備、12月に研究冊子の校正作業のための部会を別途行った。

2 第21回 研究部ワークショップ

7月31日と8月5日に対面で実施し、多数の参加者あった。内容は、1日目:①「特別支援学級におけるプロジェクト型英語指導の実践事例をその活用」、②「はじめてみよう、Try Out 活動! ~既習事項を使って、生徒が言いたいことをTry Outさせてみませんか~」、③「発信語彙を拓げる主体的で対話的な学びの実践例」、2日目:「まとまりのある英文を書き、話すことへとつなげる工夫~苦手意識のある生徒たちとの取り組みを通して~」、②「主体性を引き出すディスカッション指導の工夫~学習者一人一人の深い学びに向かって~」、③「即興で話す力を高める授業実践 ~検定教科書の内容について~」というそれぞれのテーマで研究部員が実践発表を行った。対面では参加者同士による意見交換の機会を設定することができた。

3 研究内容:「生徒の表現の幅を広げる発信語彙」

「リストICTを使った指導実践例」

令和4・5年度の研究では、中学生が書きたいが表現できなかった語彙を分析し、トピック別に整理した。これを基に「トピック別日英対照語彙リスト」を作成し、発信語彙の定着を支援することを目指した。また、「語順ナビ」を加えて語彙を活用しやすくし、表現力向上の一助とした。さらに、ICT活用が進む中、指導の本質を見失わないための具体的な活用指針を示し、教員の実践を支援することも目的とした。

本リストは、教科書の枠を超え、生徒が実際に表現したいと考えた語彙を中心に作成されている。既習語彙の定着にも寄与し、語彙学習の深化を促すことが期待される。今年度はリスト作成に焦点を当てたが、次年度以降は授業での活用例を紹介し、研究部員の実践を通じてその効果を検証する。より多くの教室で語彙指導が展開されるよう、具体的な指導事例の共有を進めていく。

4 研究発表会・公開授業 および研究冊子「語いと英語教育(47)」発行

2月21日に日野市立日野第一中学校にて対面で研究発表会と公開授業を実施した。対面の公開授業は、同校のランチルームで実施し、宮崎 太樹 主任教諭が授業を行った。研究発表では、テーマに基づく、1年間の研究内容を発表した。指導・助言者として、本多 敏幸先生(都留文科大学ほか)に授業と研究内容についての指導・助言をいただくとともに、「生徒の発信力を高める指導」をテーマにご講演をいただいた。

また、研究部研究冊子「語いと英語教育(47)」を研究発表会・公開授業の日に発行した。紙媒体による発行は行わず、都中英研のウェブサイトに掲載する形で発行した。